

国語力の学びを教養教育への学びへ

—文字教育を例に—

桐生直代・東 茂美

From learning Japanese language skills to learning common sense,
An example of character education

Naoyo KIRYU and Shigemi HIGASHI

国語力の学びを教養教育への学びへ

—文字教育を例に—

桐生直代*・東 茂美**

From learning Japanese language skills to learning education,
An example of character education

Naoyo KIRYU and Shigemi HIGASHI

概要

平成31年度の全国学力・学習状況調査「国語A問題」では、新聞の投書欄に封書で送る際の封筒の表書きの書き方を問う問題が出題され、正答率は57.4%であった。この問いは、中学校国語科「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、いわゆる「書写」からの出題であり、「封筒の書き方を理解して書くこと」、つまり、字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して書く内容が問われている。この封書の書き方は、社会人においては一般常識であり、就職活動に際して身に付けておくべき基本的なマナーとして扱われている。

ここでは、短期大学生の同問題の解答例より学生が習得できていない要素を取り上げる。また、宛名の書き方の要素について、中学校書写の内容と就活マナーの共通点を指摘しながら、そこから国語力の学びを一般常識の学びへと繋いでいく事例を提示する

キーワード 全国学力・学習状況調査 国語 書写 中高大接続

はじめに

平成31年度の全国学力・学習状況調査で出題された「国語A問題」では、新聞の投書欄に封書で送る際の封筒の表書きの書き方を問う問題が出題された。¹⁾ 正答率は57.4%。敬称が無かったり、宛名と住所の位置が逆であったり、ファックス番号やメールアドレスを住所と一緒に書いている誤答が見られた。これらの解答例と正答率の結果を受けて、たとえば「産経ニュース」(2019年7月31日)では、「電子メールの普及などで手紙をあまり書かなくなった社会風潮を反映する結果となった」と述べている²⁾。

「A問題」は主に「知識・技能」についての問いであり、この問題の出題の趣旨は「封筒の書き方を理解して書くこと」である。ここにだけに注目すれば、たしかに、これらの解答例と正答率の背景にあるのは、メールやSNSの普及による手紙離れであろう。平成24年度に出題されたはがきの表書きを書く問いの正答率が74.2%であったことから、宛名書きについての知識と正しく書く技能が下がっていることがわかる。

この問いは、国語科における「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」からの出題である。つまり、「国語」の領域である「書写」の学習内容を問うている。そこを踏まえずしてこの正答率の背景を「SNSの普及」「社会の風潮を反映」³⁾にしてしまえば、出題の意図は社会に伝わらないであろう。たとえば、先に挙げた産経ニュースに対し、ツイッター上では、「いや、そんなの学校で教えてもらう内容なのかしら？ましてやテストで出題？」、「封筒の宛名の書き方は、『国語』のテストで問うべき『学力』に当てはまるのか、という疑問」といった出題への懐疑がつぶやかれている⁴⁾。また、「学力というよりは一般常識だと思うけど」、「義務教育で封書の書き方なんて習ったっけ？商業高校の時はビジネスマナーの授業はあったかも」⁵⁾のように、「一般常識」や「ビジネスマナー」という捉え方がなされているが、これは必ずしも少数意見ではあるまい。詳しくは後述するが、いわゆる「就活マナー」として封書(手紙)書き方は扱われており、常識や「美文字」をうたうテキストには、大人の常識として手紙の書き方のページが掲載されている。

そこで、小稿では「平成31年度全国学力・学習状況調査 国語A問題」の「封筒の書き方」を、中学校国語科の内容において位置付けた上で、高等教育における一般常識・就活マナーの面から内容を捉えていく。この一連から、義務教育で

* 福岡女子短期大学

** 福岡女学院大学

の学びを教養教育へと連携する学校段階の接続の一例として提案してみたい。

1 「全国学力・学習調査 中学国語A問題（大問1 設問4）」について

以下、「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の報告書・集計結果について」（文部科学省）より、調査の枠組み、(1) 問題、(2) 出題の趣旨、(3) 学習指導要領における領域、(4) 正答率、(5) 解答類型、(7) 改善指導に向けての項目を列挙する。⁶⁾

【中学校国語】の調査作成の枠組み

- 学習指導要領に示されている3領域1事項に基づいて、その全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題。
- 過年度の調査の結果に見られる課題等も踏まえながら、中学校第2学年までの内容で出題。

(1) 問題

7 文化 2019年(平成31年)4月14日(日曜日) 全国中学生新聞

声の広場

今年こそ優勝!!
残せ感動
残すな後悔

(中2・野球大好き)

雪がとけて春が来た、
私は春が大好き。
私の誕生日があるから、
暖かくなつたね。

(中3・こねこ)

みんなの短歌

今回は、新年度を迎えたフレッシュな心境を表現した作品が集まりました。

目が覚めるジリジリと鳴る前に胸が高鳴る入学の朝
中一 泉 あきら

「選者より」「ジリジリと鳴る前に」と「胸が高鳴る」という表現から、いつもは目覚まし時計の音で起きているのに、この日の朝は、胸がどきどきして目覚まし時計が鳴る前に起きてしまったことが想像できます。入学式の朝は、新しい生活に思いを巡らせて、落ち着かない気持ちになるものです。

新しいノート教科書取り出して背筋伸ばして始まりを待つ
中一 内山 誠二

玄関の鏡の前でもう一度前髪笑顔ボタン笑顔と
中二 森川 りか

春風がいつもの道を駆け抜ける街の足取り自然と軽く
中三 松田 花子

▼投稿先
〒100-6543 東京都千代田区中央3
全国中学生新聞「声の広場」係
FAX 000-123-xxxx
メール zenkoku@xxx.xx.xx

▼イラストははがき大。「みんなの短歌」は1通に2首まで。
▼氏名、学年、住所、電話番号を明記。
イラストはペンネーム可。



※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

- 四 あなたは、「声の広場」への投稿を封筒で郵送しようとしています。「全国中学生新聞」に示されている投稿先の名前と住所を、次の条件1と条件2にしたがって、楷書^{かじょう}でていねいに書きなさい。なお、自分の名前と住所は不要です。
- 条件1 封筒の書き方に注意して縦書きで書くこと。
- 条件2 投稿先は団体なので、「様」ではなく「御中」と書くこと。

- (2) 出題の趣旨
封筒の書き方を理解して書く
- (3) 「学習指導要領」における領域
「学習指導要領」(2008年告示版)

〔第1学年〕

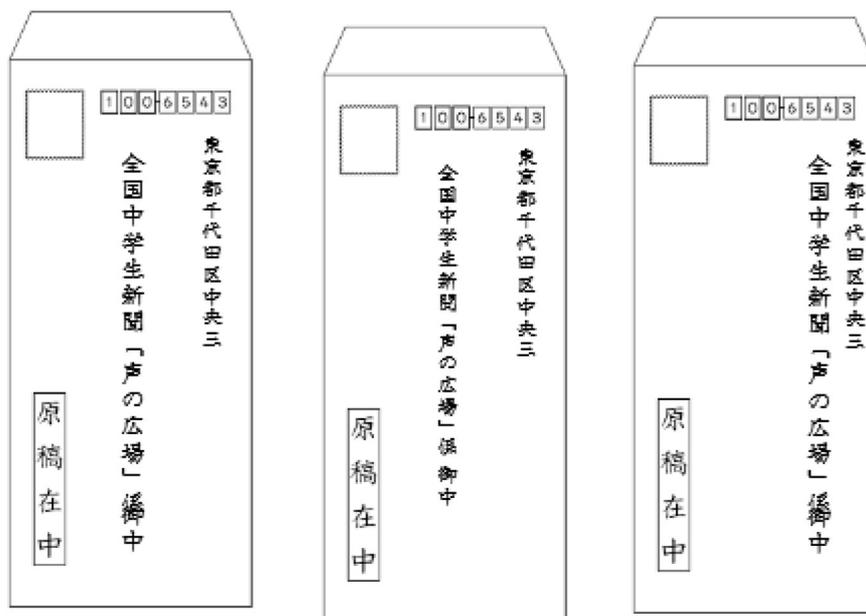
〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

(2) 書写に関する次の事項について指導する。

ア 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。

- (4) 正答率57.4% 領域等1 (2) ア、過年度関連あり

(5) 解答類型



- ・「解答類型1」正解（15.6%）
- ・「解答類型2」投稿先の名前と住所を同じ大きさで書いている。（39.1%）
- ・「解答類型3」投稿先の名前や住所を書く位置が大きく隔たっている。（2.8%）
- ・「解答類型4」投稿先の住所にメールアドレスなどを含めて書いている。（16.7%）
- ・「解答類型99」投稿先の名前と住所の位置を逆に書いている。敬称を誤った位置に付けて書いている。（20.5%）

(6) 〈今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問〉

封筒の書き方を理解し、文字の大きさや配列などに注意して書くことに課題がある。

(7) 〈指導改善に向けて〉

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して書く指導の工夫
毛筆を使用する書写の指導と硬筆を使用する書写の指導との割合を各学校と生徒の実態に即して適切に設定して指導すると共に、書写の能力を学習や生活に役立てるように指導する。

2 「全国学力・学習調査 中学国語A問題（大問1 設問4）」の検討

(1) 「学習指導要領」における領域

出題の趣旨にもあるように、この問題は、「第1学年」の「ア 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと」を踏まえている。つまり、手紙の形式についての知識のみを問うものではなく、文化として継承されてきた形式を踏まえた上で、書式に沿った配置・配列の仕方、文字の大きさ、字間・行間の適切さについての解答を求めている。

また、出題の趣旨は「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」であるが、第2学年の「書くこと」の言語活動例に「社会生活に必要な手紙を書くこと」がある。 ※下線部は筆者による。以下同じ

(1) 書くこと的能力を育成するため、次の事項について指導する。

- ア 社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること。
- イ 自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫すること。
- ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。
- エ 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にすること。
- オ 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言をしたりして、自分の考えを広げること。

(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

- ア 表現の仕方を工夫して、詩歌をつくったり物語などを書いたりすること。
- イ 多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。
- ウ 社会生活に必要な手紙を書くこと。

なお、2017年告示、2021年度より施行される「新学習指導要領」において、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は「知識・技能」の中に位置付けられ、(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項、(2) 情報の扱い方に関する事項、(3) 我が国の言語文化に関する事項に構成し直された。以下はその内容である。

「学習指導要領」(2017年告示版)

[第1学年]

[知識及び技能]

(3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。
 - (ア) 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。

この位置付けにより、「書写」の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」という言語活動を支える基礎的役割が、より明確になったといえる⁷⁾。

「書くこと」については、以下の通りである。

B 書くこと

(1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。
- イ 伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫すること。
- ウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。
- エ 読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えること。
- オ 表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。

(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

- ア 多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く活動。
- イ 社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く活動。
- ウ 短歌や俳句、物語を創作するなど、感じたことや想像したことを書く活動。

新学習指導要領では、イにおいて、「電子メール」が加わった。また、相手意識や「媒体」の考慮が加味されている。これは手紙・メールが、相手に思いを届け、相互にやりとりをする言語活動であることの強調といえよう。

いふならば、新学習指導要領における「手紙」の書き方は、「伝えたいことを相手や媒体を考慮して」「字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して」書く活動といえる。つまるところ、形式を知識としてのみ習得する指導ではなく、相手意識が伴う学習活動であることが求められるのである。

また、「知識・技能」に関する目標は中学校1年生から3年生まで同じであり、「中学校を通して、社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けること」、「我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにすること」を求めている。継続された「字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと」は、「新学習指導要領」において、より社会や自分との関わりの中でそれらを生かしていくことが求められているといえよう。

(2) (7) 〈指導改善に向けて〉の検討

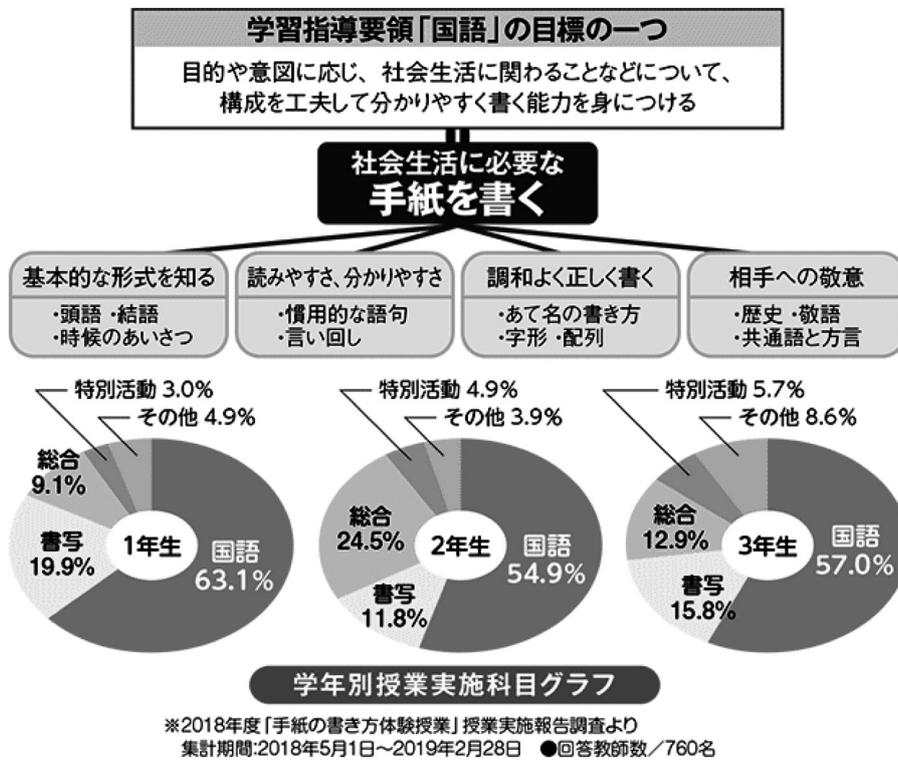
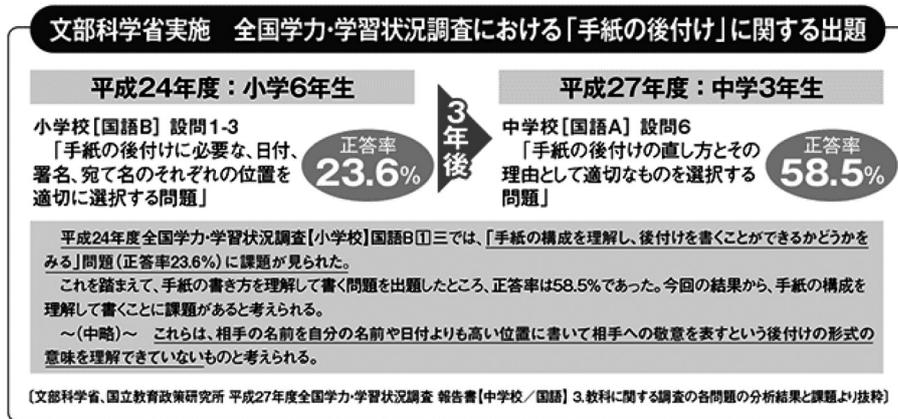
テスト結果を受けて〈指導改善に向けて〉の提案がなされたが、ポイントは毛筆と硬筆の割合を生徒の実態に即して設定することと、書写の能力を日常生活に活かすことの2点である。書写の時数は、第1・2学年は年間20時間程度、第3学年は年間10時間程度であり、「新学習指導要領」においても変更はない。この時間数と学校現場の実態については、2019年に発表された日本書道ユネスコ登録推進協議会の「書道文化に関する基礎調査報告書(付) 書道団体実態調

査⁸⁾において、指導の必要さを感じながらも時間数の確保が難しい現状が報告されている。このような現状を鑑みると、この〈指導改善に向けて〉は具体的な指導改善に向けての具体的な提言とは言い難い。「学習指導要領」が社会生活に必要な手紙を書くことを言語活動例としてあげている以上、その効果的な学習活動検討が必要であろう。

図1、日本郵政グループが行った「2018年度『手紙の書き方体験授業』授業実施報告書」によると、中学校において手紙の書き方を行った教科は全学年通して、「国語」が半数を超え、その次が「書写」、「総合的な学習の時間」が続く。2年生では「書写」よりも「総合的な学習の時間」の割合が多い⁹⁾。

その場合、他教科での活動の中で、「書写」の「字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して書く」学習をどのように効果的に取り入れていくか、教科横断的な学習活動としての授業の構想と教材の開発が課題といえよう。

学習指導要領「国語」の目標の一つには、「目的や意図に応じ、社会生活に関わることなどについて、構成を工夫して分かりやすく書く能力を身につける」とあり、その言語活動例の一つとして「社会生活に必要な手紙を書くこと」が挙げられています。



また、学習指導要領の「総合的な学習の時間」には、日常生活や社会との関わりを重視することが述べられており、「国語」以外の単元で手紙を扱うことも有効です。

図1

(2) 中学校書写教科書の内容

図2は、東京書籍発行の『新編新しい書写』における(2)「ウ 社会生活に必要な手紙を書くこと」の指導系統であ

ページ	学年	教材名	内容
100～101		◆資料1 いろいろな書式	・はがき ・エアメール用封筒
88～89	3	二 効果的に書こう 2 絵はがきや電子メールを出すときに	・絵はがき
72～78	2	● 防災訓練に参加しよう 四 生活を豊かにする文字	・お礼の手紙 ・横書き封筒 ・手紙の基本的な書き方 ・時候の挨拶(歳時記の季節)
68～69	2	三 楷書と行書 1 楷書と行書の使い分け	・手紙
42～45	1	● 職場訪問をしよう 三 生活を豊かにする文字	・縦書き封筒 ・依頼の手紙 ・お礼の手紙
37～39	1	◆生活に広げよう ー 年賀状を書こうー	・年賀状 ・都道府県名 ・名前の書き方 ・往復はがき

社会生活に必要な手紙を書くこと。

に関連する内容



図2

る。各学年に単元と教材が配置されており、発達段階に合わせた学習活動が構想されている。また、封筒の表書きは手紙の形式を学ぶ活動と同時に進められることが多い。¹⁰⁾

それでは、他の教科書では「封筒の表書き」がどのように扱われているのか、見てみよう。

- ① 光村図書出版『中学校書写』資料「日常の書式」
- ② 三省堂『現代の書写』資料編「日常の書式」
- ③ 教育出版『書写』コラム「書式の教室」※全編にわたりさまざまな手紙の形式を紹介している。
- ④ 学校図書『中学書写』「第7単元生活に活かす書写」※マナーについては、コラム「書写の窓」
- ⑤ 東京書籍『新編 新しい書写』「三 生活を豊かにする書写」

すべての教科書が取り上げており、単元のなかで取り上げている教科書と、資料として掲載している教科書に分けられる。なかでも注目したいのは「東京書籍」の『新編 新しい書写』である。ストーリーを追いながら、書写で学習したことが生活の中でどのように生きているのか学習できるように構成されている。たとえば、1年生では「職場訪問に行こう」という設定のもと、その際に必要な「縦書き封筒・依頼の手紙・メモ・新聞・原稿用紙・お礼の手紙」が学べる内容になっている。国語のみならず、総合的な学習の時間との関連を持たせることができる学習活動である。

以上、「封筒の表書き」について、学習指導要領の位置付けと書写の教科書の取り扱いについてあげてきた。先にこの出題に対する疑問の声を紹介したが、封書の書き方は、調和よく整えて書く技能と知識、言語活動の充実を図るための学習活動であり、現行のすべての教科書において教材として取り上げられている。同ツイッターでは、「封筒の書き方からなくても困らない。封書で送るモノも減ってるし、メールとLINEでほとんどの人が事足りてるってことだと思うんだけど」との意見も見られるが¹¹⁾、「新学習指導要領」が「社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど」と変更したように、手紙・メール・LINEはコミュニケーションの手段として同列であり、場面や相手に合わせて書く力、言い換えれば、文字によるコミュニケーション能力（資質・能力）の育成が求められているのである。そして、封筒の表書きは、文字の大きさや配列による見やすい紙面を書くことで、相手意識を伴ってこそその形式であることを学ばせることができる。

3 問題点 短期大学生の解答例から

それでは、義務教育で学んだ「手紙の表書き」を、学生や社会人はどのように習得しているだろうか。ここでは、短期大学生・四年制大学生の「就活マナー」と一般向けの指南書の内容を確認し、短期大学生の実例から、「手紙の表書き」の問題点をあげる。

(1) 学生の例

2019年度（後期）福岡女子短期大学教職課程科目「国語科教育法」（1年生）において、平成31年度全国学力・学習調査を、履修者に解かせた。目的は、学生に実際に解かせることで中学生の国語の学力を理解させること、そして学生の現状を把握するためであった。履修者は5名、実施日は2019年10月4日「国語科教育法」授業内で行った。採点については、模範解答を渡し、自己採点をさせた。その際、授業担当者による解説はしていない。

以下、学力テスト解説による「正答の条件」と「解答類型」と合わせて見てみよう¹²⁾。

（正答の条件）

次の条件を満たして解答している。

- ① 投稿先の名前と住所の正しい内容を楷書で書いている。
- ② 投稿先の名前に敬称を適切に付けて封筒の中央に書き、住所を封筒の右側に書いている。
- ③ 投稿先の名前を住所より大きく書いている。
- ④ 縦書きで書いている。

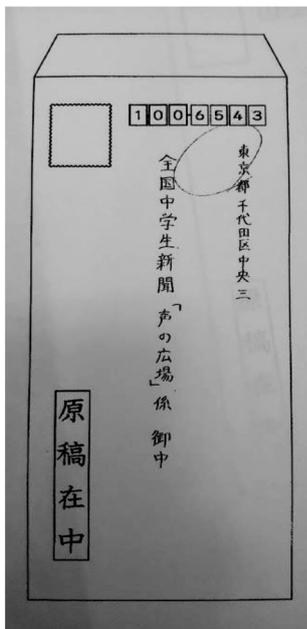
■解答類型について

- 【解答類型1】は、封筒の書き方を理解して書くことができている。
相手の名前は敬称を付けて中央に大きく書き、住所は右側に名前よりやや小さく書くことなどが大切である。その際、手紙の形式に込められた相手への敬意について考えることも重要である。
- 【解答類型2】は、文字の大きさを考えて書くことに課題がある。ここでは、投稿先の名前を住所よりやや大きく書く必要がある。
- 【解答類型3】は、紙面全体に対してそれぞれの文字の書くべき位置を考えて調和的に割り当てて書くことに課題がある。ここでは、投稿先の名前は封筒の中央に書き、住所は封筒の右側に書く必要がある。
- 【解答類型4】は、書こうとする文字の字形を整えて書くことなどに課題がある。ここでは、投稿先の名前と住所について正しい内容を楷書で書く必要がある。

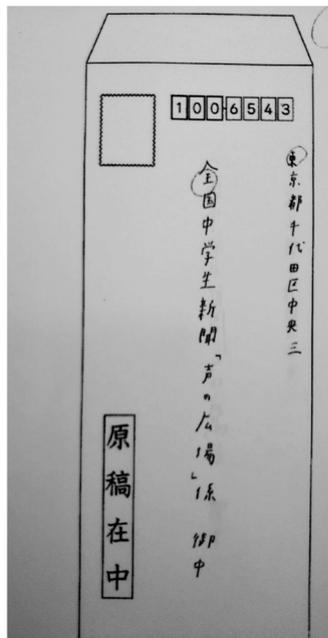
【解答1】は正答の条件を満たしている。【解答2】は①、②、④は満たしているものの、「国」「中」がやや小さいか。【解答3】も、「全国中学生」が住所とほぼ同じ大きさで書かれている。【解答4】は、文字の大きさに問題はないものの、投稿先の名前と住所をほぼ同じ位置から書き始めている。この住所と宛先名の書き位置については、正答条件には含まれていない。したがって、この正答条件のみでいえば、【解答4】、【解答5】ともに正答となる。しかし、これを中学校書写の学習内容、教科書掲載の教材（図2）から見ると、【解答4】は投稿先の書き始めが住所より下がっておらず、【解答5】は、投稿先の住所と名前の書き始めの高さが、逆になっている。教材では宛先名の書き始めの位置を指摘していることを踏まえると、【解答4】と【解答5】は完全な正答とは言えない。

また、余白の取り方でいえば、【解答2】、【解答5】はやや右に寄りすぎている。図2の教科書教材にも、余白を表す○印が付けられている。さらに言えば、見やすさの観点から、封筒全体の大きさに対する文字の大きさにも留意すべきであろう。

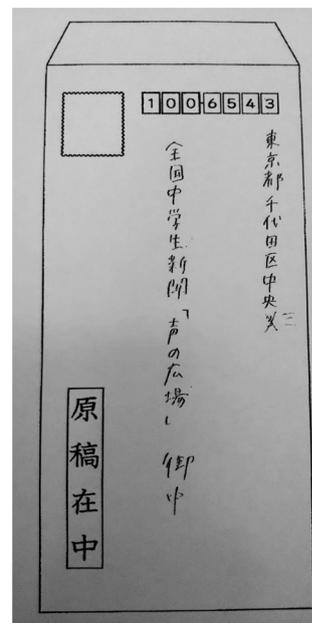
【解答例1】



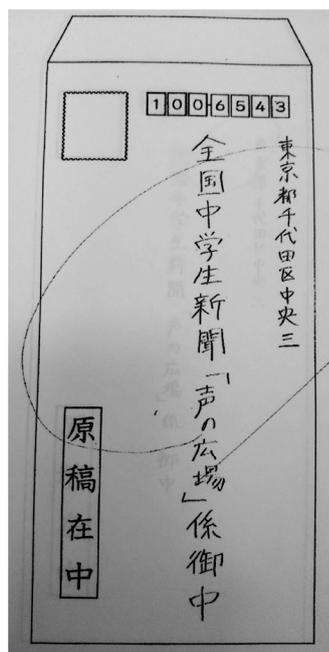
【解答例2】



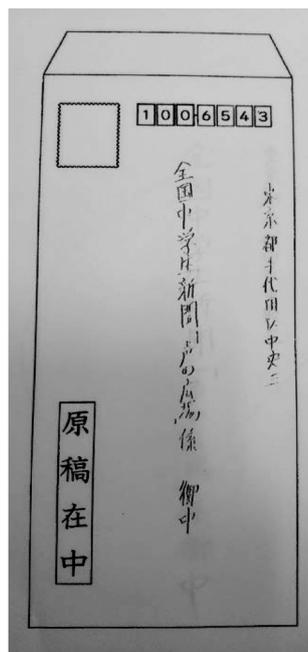
【解答例3】



【解答例4】



【解答例5】



以上、授業例からいえる対象学生の問題点は次の3点だといえる。

- ・文字の大きさについて
- ・住所と名前の位置について
- ・空白の取り方について

学力テストの正答の条件③「投稿先の名前を住所より大きく書いている」にやや問題が見られることから、名前は住所より大きく書くことを十分に理解していないことと、全体のバランスを見る力が不十分だと考えられる。形式を整える要素を理解した上で、書いた文字を俯瞰して見る力を付けさせることで改善できると考えられる。この全体のバランスを考え、それにふさわしい大きさや位置を把握することは、空白の取り方にも同じことがいえるであろう。住所と名前の位置について、なぜこのように書くか、管見においては「見やすい」という説明しかなかった。下げて書くことで郵便番号欄と下の余白とのバランスをとることができ、さらに封筒全体の中心に宛名を据えることができる。

また、【解答2】～【解答5】において、文字の大きさや配置配列について問題がありながらも、自己採点で正解としているところにも注目すべきであろう。模範解答とのすり合わせが不十分なのは、ひとつに大まかな配置配列しか見ていないこと、そして、文字の大きさについての知識がないことが推測できる。

もう一例、2019年度（後期）福岡女子短期大学教養科目「実用書道」（1年生）「書道3」（2年生）で書かせたはがきの表書きについて報告する。この授業では高等学校書道副教材『硬筆レッスン帳』を使い、基本的な文字の書き方と、手紙や履歴書などを書く授業を行った。授業は次のように行った。

- ① テキストのお手本を見て練習（図3）¹³⁾
- ② テキストに書き込んで提出、授業担当者が添削して返却
- ③ 実際のはがきに年賀状を書く。表と裏を書く。表書きは実際に出したい人の名前を書く。住所と氏名は架空でもよい。ただし、差出人は自分の名前を書くこと。住所は架空でもよい。

個人情報の都合上、実際に掲載することはできないが、完成作品17枚のうち、17枚中2枚が、住所と名前が同じ大きさで書かれていた。また、宛名を大きく書き、住所より下げて書くことができているのは10枚、住所と宛名があきらかに同じ位置から書かれているのが3枚、宛名を下げて書いているものの、あいまいにも見えるものが4枚であった。つまり、お手本があり練習をしているにもかかわらず、文字の大きさと配列について書くことができなかった学生がいたことがわかった。

したがって、封筒（はがき）の宛名書き、ひいては形式のある文書については、一度の学習では完全に習得することが難しく、繰り返しの練習やお手本、フォーマットの常備などが効果的だと考えられる。たとえば、日本郵政グループが開催している「手紙の書き方体験授業」HP上には、宛名書き用のテンプレートがあり、その枠内に収まるように書いていくとバランスよい表書きが完成できるように作られている¹⁴⁾。相手への配慮が形として現れることを、型の習得をとおして学ぶことができよう。授業者と学習者に必要なのは、形式を整えるための要素の知識と理解、技能の習得、そ

して読み手への配慮である。つまりは、文字によるコミュニケーションを円滑に行うための力である。

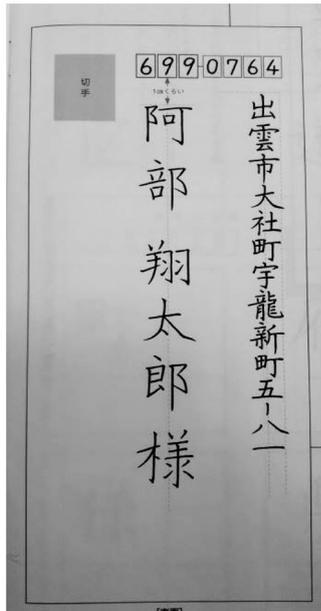


図3

4 就職マナーとしての封筒の宛名書き

中学書写における日常生活における書の内容は、いわゆる一般常識として社会人が身に付けておくべき内容でもある。たとえば、就職活動において、手書きで履歴書やエントリーシート、手紙の書き方を習得するのは、いわゆる「就活マナー」だとされている。学生たちは就職活動を前に「手書き」に向き合うことになる。もっとも気になるのは自身が書く文字の巧拙であり、マナー（形式）に乗っ取った文書の書き方であろう。

たとえば、リクルートが運営する「リクナビ」は、その運営サイト「就職ジャーナル」において次のような記事をあげている¹⁵⁾。※下線部と番号は筆者が付けた。

- (1) 企業は応募書類の内容から「あなたの人となり・個性」を知りたいと考えています。書く内容もちろんですが、手書きの文字からは個性が伝わります。
- (2) 企業が最初に見るのが氏名、住所です。氏名は、誰しもこれまでの人生で一番多く書いてきたであろう文字。応募者の人柄が最も表れる文字であることから企業の注目度も高く、気合いを入れて丁寧に書くことが重要です。
 いわば、手書き文字の書き手の人格が現れるという趣旨である。そして、「丁寧に書くこと」の重要性を説いている。さらに、「きれいに書くコツ」を具体的にあげている。少し長いが引用する。
- (3) 基本情報は決められた枠内にきれいに収めることを意識しましょう。(略)
枠内の上下左右の余白を意識し、中央にバランスよく書き入れましょう。氏名と性と名の間は少し開け、ふりがなもそれに準じると読みやすさが増します。住所は番地、マンション名を一回り小さく書くとバランスがよく、美しく見えます。
- (4) 一息で読みやすい一行の字数は35字ほどと言われています。フォーマットのサイズにもよりますが、制限されている文字数が400文字ならば、35行で割って11行余りと算出し、11行で書くことを意識してみましょ。そして「改行は文章の区切りのいいところで」が鉄則。単語の途中で改行されていると非常に読みづらくなるので注意しましょう。
- (5) あまりに文字がぎゅうぎゅうに詰まっていると、読み手を疲れさせてしまうので注意を。枠内の上下左右の余白を意識するほか、行間を均等に空けるとバランスがすっきり整い、読みやすさがぐんと増します。1文字の半分程度の広さを目安に空けるよう心がけましょ。

(3) は中央を揃えることと、文字の大きさと字間について、(4) は、分かち書きの注意、(5) では (3) 同様、余白と字間、つまりは文字の配置配列について述べている。また、それぞれは「読みやすさ」につながっており、いわば、「きれいに書くコツ」とは、「バランス」をとることであり、「きれいに」「美しく」書くことは「読みやすさ」に配慮したことだと理解することができる。さらにいえば、文字をきれいに書くのではなく、書類全体の見た目をきれいに書くことこそが、「きれいに書く」ことだといえよう。

だからこそ、この記事の最後は次の文章で締めくくられている。

(5) 字が下手だから…と気に病むことはありません。手書きの文字からは書き手の表情が見えてきます。たとえ下手でも思いを込めて丁寧に書けば、熱意、意欲が伝わり、受け取る方に与える印象もぐんと上がるはず。文字の大きさやバランス、配置などに気を配りながら、一文字一文字じっくり丁寧に書くことが、きれいな応募書類を書く最大のコツです。

つまり丁寧に書けばきれいな文字が書けるのではなく、きれいな応募書類を書くことができるのである。そして、この丁寧さこそが熱意や意欲の表れとして、受け取り側（採用者）に好印象を与えると示唆している。さらにいえば、この丁寧さは文字の稚拙さをカバーする。

下線を引いた部分は、小稿で取りあげた学力テストの出題の趣旨、「字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して書く」の内容と重複する。たとえば、(1) の「住所は番地、マンション名を一回り小さく書く」は、正答の条件にそのまま当てはまる。つまり、「バランスがよく、美しく見える」「読みやすさ」の条件は、確かな書写能力に支えられており、生活に生きて働く知識と技能の育成によって身に付けることができる。

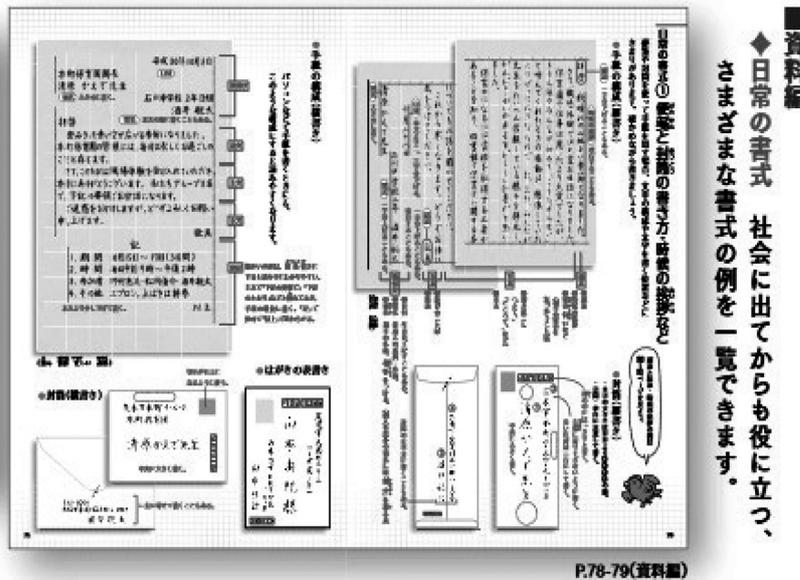
試みに、福岡女子短期大学の学生が持つ「キャリアデザインブック」¹⁶⁾の「宛名の書き方」と三省堂の「中学書写」の該当箇所¹⁷⁾を比べてみよう。

「キャリアデザインブック」

- 封筒は表に相手の、裏に自分の住所・氏名を書く。
- 郵便番号、都道府県名を省略しない。
- 住所は小さめ、名前は大きめの字で書くとバランスがよい。
- 特に送り先社名は大きく、中心に書く。
- 企業の相当部署あてに送る場合は「御中」、担当者あてに送る場合は「様」を使用する。
- 平仮名、数字は漢字より小さく書くとまとまりが良い。

『現代の書写』

- ・文字の大きさはおおよそ①②③④の順。
- ・字間・余白に注意して書く。
- ・枠の中にはっきりと書く。右端に寄りすぎないように書く。長い住所は二行にして書く。
- ・中央に大きく書く。



書き方の説明内容が同じであることは、一目瞭然である。中学校で学んだ知識と技能は、社会人においては、常識を測るものさしとして評価の対象となる。丁寧に書けば美文字になるのではない。「文字の大きさやバランス、配置などに気を配る」丁寧さが「きれいな応募書類」を書くコツであり、その「気を配る」観点は、中学校の学びの中に存在しているのである。

結びにかえて

中学校書写の内容と就職マナーで学ぶポイントは同等であるが、これは、書写の内容が言語活動を支える基礎的な役割を担っていることでもある。今回は触れなかったが、手紙の書き方は高等学校の国語でも取り扱われている。現行の学習指導要領において、「国語総合 書くこと 言語活動例」として「相手や目的に応じた語句を用い、手紙や通知などを書くこと」が示されている。また、「新学習指導要領」で共通履修科目として新設された「現代の国語」では、「実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力の育成」に主眼が置かれている。現代の社会生活に必要とされる「論理的な文章及び実用的な文章」を読む力や「実用的な文章」の例として、新聞や会議の記録、報告書、説明書、キャッチフレーズなどと共に、手紙も教材として挙げられている¹⁸⁾。

このように、高等学校国語においては、従来以上に実用的な文章の読み書きが重視されるが、ここに中学国語（書写）から高等学校国語、大学・短期大学における教養教育という中高大を一貫する学習を構想することができるであろう。もちろん、手紙の学習は小学校国語、書写でも行われる。それぞれの学習段階の接続と連続性を踏まえ、見据えた学習のデザインを今後の課題としたい。文字を取り巻く環境や価値観が変化しつつある今、社会生活の基盤を支える国語力、書写力を生きて働くことばの力として培うことが必要である。

注

- 1) 2019年4月18日実施。中学校は第3学年を対象に行われた。
- 2) 「【全国学力テスト】新聞に投稿…封筒の書き方で間違い続出正答」www.sankei.com (2019年1月3日)
- 3) 注2に同じ。
- 4) ツイッターのコメントで見るニュースサイト・セロン CERON 「【全国学力テスト】新聞に投稿…封筒の書き方で間違い」(2019年7月31日) ceron.jp (2020年1月24日)
- 5) 注4に同じ。
- 6) 国立教育政策研究所 <https://www.nier.go.jp> (2020年1月7日)
- 7) また、「我が国の言語文化に関わる」とは、次のように説明されている。
我が国の歴史の中で想像され、継承されてきた文化的に高い価値をもつ言語そのもの、つまり、文化としての言語、また、それらを実際の生活で使用することによって形成されてきた文化的な言語生活、さらには、古代から現代までの各時代にわたって、表現し、受容されてきた多様な言語芸術や芸能などに関わることである。
- 8) 日本書道ユネスコ登録推進協議会「書道文化に関する基礎調査報告書(付)書道団体実態調査」www.shodoisan.jp (2020年1月15日)
- 9) 日本郵政グループ「手紙の書き方体験授業」<https://www.schoolpost.jp/> (2020年1月15日)
- 10) 東京書籍『新編 新しい書写』 <https://www.tokyo-shoseki.co.jp> (2020年1月15日)

- 11) 注4に同じ。
- 12) 国立教育政策研究所「平成31年度全国学力・学習状況調査」の調査問題、正答例」
https://www.nier.go.jp/19chousa/pdf/19kaisetsu_chuu_kokugo.pdf (2020年1月15日)
- 13) 和田康子『硬筆レッスン帳』教育図書、2019年。
- 14) 注9に同じ。
- 15) リクナビ「【見本あり】履歴書・エントリーシート (ES) を手書きで美しく書くコツは? 書家に本気で教えてもらった (2019年3月26日)」「就職ジャーナル <https://journal.rikunabi.com/p/break/30589.html> (2020年1月7日)
- 16) 1年生開講科目「キャリアプログラム」にて、全員に配付。就活マナーだけでなく、自己分析や企業研究の方法など、就職活動に必要な事項や内容を掲載した手帳。企画・編集・発行 DISCO
- 17) 三省堂「中学書写」<https://tb.sanseido-publ.co.jp/j-school/js-shosha/28-jshosha/> (2019年1月7日)
- 18) 文部科学省「新学習指導要領 高等学校指導要領 国語 (平成30年告示)」